

約 14 億の人々が極度の貧困状態（1 日 1.25 ドル未満、なお 2 ドル未満では 25 億人、総人口 55 億；2005 年 by 世界銀行 PovcalNet）の中で生活し、富裕国と貧困国との格差は拡大し続け、先進国内の貧富の差も拡大し続けている現状において、貧困は国際政治経済問題の大きな領域である。本講義では、概説、第三世界都市貧困の現状、貧困者自身の様々な創意工夫のある試み・主体的運動及びその可能性、貧困解消に取り組む住民・NGO・国家・国際機関の役割について、貧困者の視点から現実を紹介しながら論じる（時間があれば先進国内の貧困問題等についても考察してみる）。

【評価方法】 [出席 (50%) と試験 (50%)] または [出席 (50%) とレポート (50%)] で評価する。どちらにするかは初回に希望を聞いた上で判断する。試験の場合は期末試験中に持ち込み不可で行う。レポートの場合は 2 種類(A, B)提出する必要がある（提出時にホッチキス等でとめておくこと）。A は各回の講義（授業日）ごとにその中で自分が学んだことを 300 字以上でまとめて、最後に全部まとめて提出する。B はレポート執筆要領による。

→レポート支持 90 名、試験支持 37 名のため [出席 (50%) とレポート (50%)] に決定。

【参考書】 幡谷則子、下川雅嗣 [編著] 『貧困・開発・紛争：グローバル／ローカルの相互作用』（地域立脚型グローバル・スタディーズ叢書第 3 巻）上智大学出版会・2008 年。

*その他の参考文献は、参考文献表及びその都度紹介する。

【授業計画】（下記は主な項目予定であり、必ずしもこの順序で進めるとは限らない）

1. イントロダクション、貧困の定義
2. 第三世界の貧困問題概説
3. 貧困と貧富の格差、貧困の罍
4. アジアの都市貧困層の現状と開発政策における位置付け

<アジアの貧困者の厳しい現実>

5. 開発と都市貧困層（アジアの例）
6. 政府開発援助（ODA）による大規模プロジェクトと貧困層/居住権
- 7 開発政策・貧困解消政策の方向性(住民、NGO、国家、国際機関の役割)

<アジアの都市スラムの人々の可能性>→タイ、インド、パキスタン、カンボジア、インドネシア、フィリピン、韓国等の事例を中心に。

- 8 アジアの都市スラムの人々の可能性 I:土地・住居へのアクセス
- 9 アジアの都市スラムの人々の可能性 II:貧困者居住運動
- 10 アジアの都市スラムの人々の可能性 III:信用・市場へのアクセス
- 11 アジアの都市スラムの人々の可能性 IV:貧困者経験交流、エンパワーメント
- 12 アジアの都市スラムの人々の可能性 V:貧困者のスペースの拡大と People's Process
- 13 貧困者の歩み（People's Process）の発展：新たな発展（開発）モデルを求めて I
- 14 貧困者の歩み（People's Process）の発展：新たな発展（開発）モデルを求めて II